

埼玉県立大宮高等学校



創立90周年記念

創立90周年を祝して
卒業生からのメッセージ

森田 真奈美
平成15年卒
ジャズピアニスト

弾き続ける、自分だけの道

大宮高校創立90周年おめでとうございます。在学時、わたしはジャズピアニストになりたいと思っていましたが、決断できずにいました。しかし3年時の担任の先生が、ピアノを辞めることはない、勉強しながら弾き続ければ良いと言ってくれました。結果、上智大学へ進学しましたが2年で中退し、アメリカで音楽を志す道を選びました。しかし上智での出会いや経験は、音大に通っていたら絶対に手に入れられなかつたもので、それは間違いなくいまのわたしの糧となっています。

いろいろ悩むことも多いと思いますが、決断や道はひととぞれです。いま感じることを大切に、自分だけの道を作ってください。

小林 剛也
平成9年卒
財務省職員
在ドイツ日本大使館一等書記官

大宮高校での出会い・そして再会

1996年の秋のことでした。部長をしていた生物部の部室を、来日中のドイツ姉妹校のヴェガナー校長先生が訪ねました。私は、松井貞夫校長先生や部員達が見守る中、拙い英語で活動を説明。将来はドイツと関わる仕事ができれば、という漠然とした希望が生まれたのはこのときでした。しかし、その後の進学や就職の慌しさの中で、この出来事は記憶の底に沈んでいました。

あれから20年後。外交官として私はドイツ・ベルリンに赴任し、ベルリン近郊のコトブスで現職のヴェガナー校長と再会を果たすことが出来ました。高校生の頃の私には、もちろん知る由もないことです。

人生の巡り合わせの不思議さ、そして、こうした機会を与えてくれた母校大宮高校に感謝の気持ちを感じずにはいられません。

萩原 浩
昭和50年卒
作家
直木賞本年受賞

たった3年、たかが3年

高校時代の僕は部活もやらず、といって勉強もしないダメダメ生徒で、正直、高校に良い思い出は少なく、皆さんに偉そうにお話しできることは何もありません。

でも、人生の先輩としてなら、これだけは言えます。

高校時代の3年間なんてあつという間。

いまの皆さんにとっては、人生の五分の一か六分の一を占める長い日々でしょうけれど、30歳になったら十分の一、60になつたらたった二十分の一の時間です。

充実した毎日を送っている人は、「たった3年」ですから、いまを思い切り楽しんでください。

昔の僕みたいに大人や学校が不満で鬱々としている人も、だいじょうぶ。「たかが3年」ですから。

楽しいことはこれからだ。

竪十萌子
平成12年卒
埼玉中央法律事務所
弁護士

「今しか頑張れない」という覚悟

高校時代に進路を決める際、人の相談に乗り解決することに喜びを覚える自分、に気がつき、弁護士を目指しました。今の時期に、「自分は何をしているときが好きなのか」と、自分を見つめて下さい。好きなことが仕事となるのは大変幸せです。そして夢に向かって、今しか頑張れない、と覚悟を決めて頑張って下さい。

頑張ることは、勉強だけで無く、友人関係・部活・学校行事・社会活動・様々なことに興味を持って励んで欲しいです。苦しかったことも楽しかったことも全てが将来の財産となります。学歴だけでは無く、伝統と自由のある大宮高校を是非とも謳歌して下さい。皆さんと社会活動の中でお会い出来るのを楽しみにしています!

斎藤 繼之
平成9年卒
東京大学大学院
農学生命科学研究科准教授

恩師が信じてくれていた

高校時代は、はしゃいで怒られ、悩んで励まされ、今思うと常に落ち着きがなかったように思います。部活ばかりで、勉強に集中した記憶はありませんでしたが、それでも卒業後の進路は勉学の道でした。高校3年次の3月、私は第一志望大学の受験に失敗し、(大した努力もしていないものの)疲れ切っていました。担任の稻垣先生に「〇〇大学は合格したんで、そっちに行こうと思うんですが」と相談にいったところ、笑いながら「何馬鹿なこと言ってんだよ、浪人だよ、浪人」と即座に言われ、議論の余地などありませんでした。この会話は、振り返れば実に私の人生を左右した出来事で、稻垣先生が私を信じてくれたんだな、と思います。

前島 富雄
昭和42年卒
桶川市教育委員会
教育長

大宮高校の一層の発展を祈る

私は昭和53年から11年間母校である大宮高校に理科（化学）の教諭として在職させていただきました。

昭和47年の県立羽生高校を振り出しに県立桶川高校を経て3校目として着任しました。年齢は30代前半、怖いものなしで年配の先生方にも失礼を顧みず遠慮せず勤務させていただきました。それも母校への強い思いからだったように思います。現在の大宮高校は揺るぎない全国屈指の進学校ですが、当時も勉強に部活動に懸命に取り組む生徒が多く、授業や部活動の指導に力が入りました。振り返ってみて残念なのは学年主任兼担任だった昭和62年に入学した生徒諸君を卒業まで見届けなかったことです。吹奏楽部の顧問としての思い出は、コンクール会場や野球場への楽器の運搬を私が幌付きのトラックを借りて運んだことです。懐かしく思い出されます。私にとって大宮高校は人生で一番充実していた11年間でした。感謝です。

田村 洋子 (旧姓: 篠崎)
昭和38年卒
1964年東京オリンピック
女子バレー代表

出会いを大切に

大宮高等学校が創立90周年を迎えたことを大変喜ばしく思います。卒業後50数年、同窓会の会報誌「やまぼうし」を通して母校の文武両道の素晴らしい実績と各分野での活躍を知り嬉しさと誇らしさを感じております。

在籍中は部活動（バレー）が主でした。当時は屋外のコートでしたので大会では肌の色の黒さが練習量に比例し強さのパロメーターでもあり、もちろん部員一同は真っ黒でした。

「バレーしかできない人にならないよう勉強も頑張りなさい」と言ってくださった担任の清原先生には現在もお付き合いいただいております。

在校生の皆さん！先生や友人たちとの出会いを大切に、これからも信じる道をどこまでも突き進んで下さい。大宮高校の嬉しいニュースは私たち卒業生をも元気づけてくれています。皆さんのますますのご活躍を祈っております。

